

## 「2014 国立台湾大学サマースクールプログラム 参加報告書」

京都大学理学部・研究科2年 龍見 勇輝

まず、今回のプログラムに参加したことによる留学、国際理解への見方の変化について。私は、以前から海外で学習をすることを目的とした留学に強い関心を寄せていましたが、今回その願いが叶うこととなったわけですが結論から言うと非常に有意義なものでした。留学以前に大学で留学生用の授業を受けたり、自分で英語の勉強をしていたりしたおかげもあり、ある程度自分の英語力に自信を持って海外の学生とコミュニケーションをとることができました。現在の語学力の巧拙にかかわらず積極的に関わっていこうという姿勢は大事だと思います。その結果、いろいろな国の方と友達になることができ、さらなる自信につながりました。多くの方たち、それも様々なバックグラウンドを持った方たちと友人になることができるのは留学の大きな魅力の一つです。今回のプログラムの参加者には日本人もおり、中には既に半年以上の長期の留学の経験したことがある人もいらして色々な話を聞かせていただく機会がありました。そういった人たちが口を揃えているのは長期の留学に今回のような短期のプログラムとは違った魅力があつて、絶対経験したほうが良いというもの。自身も1ヶ月ではその国の文化や人々を深く知るには短すぎると考えていたこともあり、長期の留学も視野に入れようと思いました。また、他にも将来的に海外の大学院でPH.Dをとろうという、私と志を同じくする学生とも会話できて非常にモチベーションが上がり、その志のより一層強くなりました。このようにして出会った人達は帰国してからもSNSなどを通してつながれるのでかけがえのない存在です。

次に台湾での生活についてです。宿舎は大学から与えられたdormで必要なものが全て揃っており、近くには手軽に食べられるお店が沢山有り、満足でした。台湾の食事は基本的に日本人の口に合うのでどれも美味しくいただくことができました。また、dormの近くのloungeには卓球場とビリヤード台が備えてあり、それを使って色々な人と交流することができました。スポーツはほぼnonverbalのできるので語学が苦手な人でもそれを通して仲良くあることが可能なのでお勧めです。Loungeには他にもstudy stationなるものがあり、授業だけでは消化できなかったところなどを台湾大学の学生が教えてくれるというもので非常にありがたかったです。ここで会った学生とは勉強だけでなく、お互いの文化のことなどを話せて楽しかったです。

次に、プログラムのないようについて。大まかに分けて、中国語コースと台湾文化を学ぶ授業がありました。中国語コースではひとクラス7,8人の能力別でinteractiveな授業で集中力を要するものでした。しかし私の担任の先生は2人とも懇切丁寧に教えてくれたおかげでなんとかついていくことができました。先生方には他にも親切にいただき感謝の念が絶えません。今後も中国語の学習は続けていこうと思います。

最後に今後の進路について。間違いなく何らかの形で海外には出ようとは考えていますが、院留学、長期の留学や他の短期のプログラムなど多くの選択肢が有り、正直なところはっきりとどの道をとるか断定できないというのが本音です。しかしのどれを選択するとしても今必要なことははっきりしています。それは、専門の勉強と語学です。今回の留学で英語で会話できたといってもまだまだ相手側に合わせてもらっている形だったのでと勉強する必要を感じました。またそれと同時に常に海外にたいしてアンテナをはっておこうと思いました。